

## 日本 DMORT ニュース第 7 号(2021 年 4 月)

### 【目次】

1. 京都府警察との協定締結
2. 令和 2 年 7 月豪雨災害における日本 DMORT の活動報告
3. 新潟大学オンラインセミナー
4. フジテレビドラマ「監察医朝顔」について
5. 学会のお知らせ
6. 事務局からのお知らせ

#####

### 1. 京都府警察との協定締結

#### 1) 協定締結の経過

(理事長：吉永和正)



令和 3(2021)年 3 月 9 日に京都府警察本部にて協定締結が行われましたが、会員の皆様には 3 月 10 日にメール[news:00063]でお知らせした通りです。

締結に関する具体的な情報が私のところへ届いたのは令和 2 年 11 月 5 日で、黒川理事より犯罪被害者支援室 異室長を通じて、協定締結に関して本部長の了解が得られたとの連絡が来ました。京都府警と日本 DMORT とのつながりは長く、関係者の間では協定締結が強く

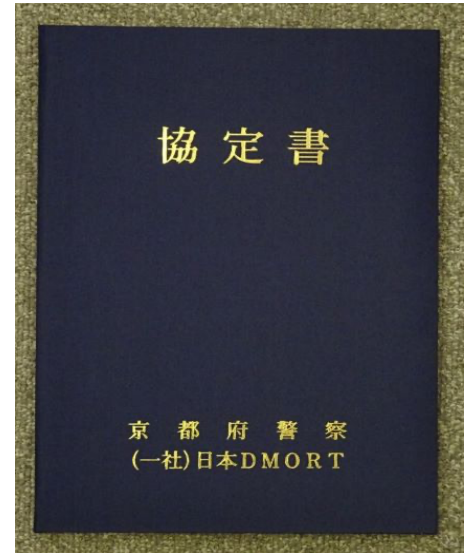
望まれ続けており、それがやっと実現することとなりました。長い経過については村上副理事長の報告を参照ください。

11 月 13 日に異室長の訪問を受けて、協定内容の説明を受けました。これまでの 3 県(兵庫、愛知、福井)の協定との大きな違いは協定文の中に日常の定期的な訓練を入れたいとのことで、これは協定文「第 3 条 甲及び乙は、この協定の効果的な運用を図るため、合同による教養訓練等の実施に努めるものとする。」に反映されました。日常から顔の見える関係を構築してゆくことの重要性に着目したものと考えます。もう一点、他県との違いは日本 DMORT 側の窓口を決めてほしいということでした。これまでの経緯もふまえて黒川理事が指名されました。

12 月 18 日に協定締結式は令和 3 年 1 月 14 日に決定して、準備が進みましたが、1 月 13 日に緊急事態宣言が発出されたことで締結式は延期となりました。再調整の結果、協定締結式は 3 月 9 日となり、無事協定を締結することができました。

締結式には吉永、村上副理事長、黒川理事、久保山理事、河野理事が参加しました。黒川、久保山、河野の 3 理事は京都に仕事の基盤があり、今後京都府警との強力な連携を構築できるものと期待しています。

なお、協定文書は証書ファイルに収められていますが、大変立派な証書ファイルを京都府警察が準備してくれました（写真）。 このように表に組織名まで印字したものは初めてであり、京都府警察の熱意と期待を感じることができました。



## 2) DMORT と京都府警のご縁

(副理事長：村上典子)

京都府警は兵庫、愛知、福井に続いて4番目の協定締結の警察ですが、実はDMORTとのご縁は古くからありました。京都府警所属の加古嘉信さん（日本で初めて現役警察官として救急救命士の資格を取得した、災害医療の世界では知る人ぞ知る有名な方で、現在は警察庁に所属）が警察訓練にDMORTを取り入れたいと奔走してくださり、日赤京都府支部との連携で、2011年1月17日（阪神淡路大震災のメモリアルデー）に災害救護訓練が行われました。まだ「DMORT養成研修会」は2回しか実施していない時期でしたが、現在の河野智子理事はじめ、京都の日赤の看護師は多数研修会受講済みだったので、遺族役、DMORT役として参加してくれました。その遺体安置所訓練に参加されたのが、協定締結に動いてくださった京都府警犯罪被害者支援室の巽英人警視（現在は別部署に異動）です。この訓練の際は実動訓練の後に、現職警察官参加のワークショップも開催しましたし、それとは別に私は京都府警本部で警察幹部の方達も参加してくださった講演「災害現場等におけるご遺体およびご遺族との関わり方について～グリーフケアとは～」も担当させていただきました。

少し余談になりますが、実は私がここまでグリーフケアに取り組むきっかけの一つとなった、ある自死遺族の患者さんがいて、その方は警察の方の対応に傷つけられたという経験があり、私にとっては警察官の方に向けてグリーフケアの普及啓発活動をするのは一つの夢だったのです。ですから光栄に感じながらも大変緊張したのを覚えています（その時のことを私は知人に「新人歌手がようやく夢だった武道館でコンサートを開けたようなもの」と報告しているぐらいです）。今でこそ、多くの警察関係から講演のお呼びがかかる

ようになりましたが、その最初の一步は京都府警であり、加古さんには大変感謝しております。

話を戻しますが、巽さんはその訓練の数ヶ月後に東日本大震災被災地でまさしく遺体安置所で遺族に寄り添う活動をされたわけですが、「この訓練の時の経験が役立った」と新聞の取材などでおっしゃってくださり、そのことは「DMORT としては東日本大震災で何もできなかった」という無力感にさいなまれていた私にとっては救いとなる言葉でした。その後、訓練にも参加していた黒川雅代子理事と一緒に「京都府警被害者等支援アドバイザー」にも任命いただいております、ずっとご縁が続いていました。協定締結により、今後ますます京都府警とのご縁が強くなることを嬉しく思います。

## 2. 令和2年7月豪雨災害における日本 DMORT の活動報告

(日本 DMORT 理事：河野智子)

令和2年7月8日から7月12日まで、熊本県人吉市、令和2年7月豪雨災害において熊本県警被害者支援室と協働することができました。7月3日から降り続いた豪雨によりもたらされた災害でしたが、われわれが到着した時には、すでに6日が経過しており、すでに24遺体はご家族のもとにお帰りになられており、ご安置中のご遺体は手の施しようがない状態でした。現場に入るのが遅すぎた・・・と後悔の念でいっぱいになりました。

遺族支援は4件のご家族とかわることができました。ご遺族のお言葉です。

＊前日にお父様を引き取りに来られ、火葬直前対面されましたが、ショックを受けられたため、お母さまを引き取りに来られた時には対面されませんでした。「今は何も考えられません・・・」

＊「コロナで8か月ほど面会できていなかったのが心残り・・・」

＊葬儀社も被災しており葬儀ができませんでした。「1週間も安置所に預けてしまい申し訳ない・・・」

＊「悲しみに浸ってられない。これからどうやって生きていくのか、大変です・・・」

本当にかける言葉がない状況でした。やはり、できることは、そばに寄り添い背中に手を当てるだけでした。コロナ禍での活動にもどかしさを感じつつ、改めて警察の方々の職務の大変さを再認識しました。

平成28年の熊本地震の際にも、熊本県警被害者支援室と遺体安置所で活動をともにして以来の協働でしたが、災害の種類が違えばご遺体の損傷もこうも違いがあるのかと学びを深めることになりました。しかし、毎回、家族の絆、人との繋がり大切さと、互いの職務の理解を深める意義を感じ取ることができました。最後に、このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝いたします。

続いて、今回、初めて活動された正会員の矢野さんからの報告と2度の熊本での遺族支援をともにした浅田調整員の報告をしていただきます。

(森ノ宮医療大学 矢野貴恵)

### 【日本 DMORT における支援者支援活動】

この度、熊本県人吉市の豪雨水害による日本 DMORT の活動に参加させていただき、

支援者支援の機会を頂くことができましたので、皆様にご報告させていただきます。

私が日本 DMORT の前身である日本 DMORT 研究会の活動に参加するきっかけとなりましたのは、東日本大震災での経験でした。東日本大震災への支援には多くの方々が参加されていますので、もしかすると中には私と同じような経験を持つ方もあるかと思います。当時、同じ時期に支援に入った精神科の看護師や臨床心理士が、災害支援後に離職したり、円形脱毛症になったりと、今考えれば災害の二次受傷による急性ストレス症状からのバーンアウトや身体症状であったと考えられますが、当事者である私達はそれを客観視する余裕はありませんでした。それほどまでに、被災地の状況が悲惨であったと言えます。

それを機に、支援者がどんなに強い人間でも、すべて自己でストレスを処理できるような完璧な人間はいません。私たちの職務上、災害支援が必要なのであれば支援者を支援する体制が必要なのではないかと考えるようになりました。そのような時に、日本 DMORT 研究会の存在を知り、研修に参加するようになりました。当初は、支援者支援がしたいと考えていましたが、繰り返し研修を受けるうちに災害時の死亡者家族支援を中心に行うようになり、今回の派遣まで支援者支援についてはあまり意識していませんでした。

今回の派遣が決まり、先遣隊 2 名が、7 月 8 日朝に出発しましたが、私は仕事の都合で 7 月 9 日朝に出発し、昼頃に人吉市の人吉カルチャーセンターに到着しました。先遣隊は現場に出ており、私がいきなり遺体の引き取りに来られたご家族の了解をいただき立ち合わせていただくことになりました。その後、先遣隊の帰りを待つ間に、被害者支援室の警察官の方々とお話する機会があり、遺族対応の際にこれでいいのかと自問自答しているということをお聞きしました。その時に、当初考えていた支援者支援を思い出すことになったのです。災害は一つとして同じものではなく、そこにかかわる人はすべて初めての体験をすることになります。どれが正しい答えなのかもわからないままに、目の前で変化し続ける状況に柔軟に対応することは決して簡単なことではありません。その時の警察の方々のご苦労は図り知れませんでした。意図せずしてデブリーフィングに立ち会うことになりました。私の経験上からも、実際の現場を知らない人に話しても伝わらないもどかしさや違和感は、話すことを阻害します。今回、私が日本 DMORT の看護師であったこと、現場での体験を共有している人間であったこと、そして、あまり知らない人であったことから胸の内を話して頂ける機会になったのではないかと考えています。

今回の経験を通して、初心を思い出すことができました。今後は、死亡者の家族支援と並行して、現場での支援者支援を実践できるように自己研鑽したいと考えます。機会がありましたら、日本 DMORT の会員の皆様方と現場活動をご一緒できればと、心から願っています。

(日本 DMORT 業務調整員 浅田恒生)

#### 【熊本県人吉市での日本 DMORT の支援活動】

2020 年 7 月 4 日 熊本県南部を中心に記録的な豪雨で甚大な被害が広がりました。日本 DMORT 研究会から一般社団法人日本 DMORT へと設立変更されて、初の支援活動と

して同県人吉市へと災害死亡者家族支援チームが派遣されることが決定しました。そのチームの業務調整員の立場から、実際の体験を通じて感じたことを伝えたいと思います。

7月7日の夜、理事長から緊急MLで派遣の募集があり、正会員の中から3名1チームが決定しました。まずは、個人の準備、豪雨災害の上にコロナの影響を受けるとなるとかなりの覚悟と準備が必要でした。移動手段は緊急通行車両等事前届出書済証を所有している自身の自家用車を使用し陸路で向かうことに決定しました。九州自動車道の通行状況を熊本県警本部の犯罪被害者室長と連絡を取り合いながら、担当警部補の案内を受け現地まで誘導していただきました。無事到着の挨拶を済ませ、我々チームの支援活動がスムーズにできるように、資材搬入場所や拠点の確保を行いました。今回は、資材の搬入や隊員の宿泊は、人吉カルチャーパレス内プラネタリウムの家族待機場所を提供いただきました。そして、遺体安置所にて、ご遺体と対面させていただきましたが、地震とは違う豪雨水害での激しい損傷を目の当たりにし、支援の大変さをより一層実感することとなりました。すでに24体はご家族のもとに帰られていました。ここで、早期の支援の必要性和活動実現の難しさを実感しました。



今回は初の体験として、広域で被災地に出向くというものでした。行方不明のご家族が混乱されておられるとの情報で被災地での家族支援に警察と同行させていただけたのです。土砂崩れの現場をご家族の方から見て欲しいとの声かけをいただき、同行して写真に収めさせていただきました。今でも、行方不明者の方々や、そのご家族の事を思うと辛い気持ちになります。しかし、災害は今後とも予想されます。今回の活動を通じて、大切だと思うのは現地県警本部との事

前協定の有無であると感じました。そして、もっと多くの情報・隊員・機動力・通信機器・支援資器材が欲しいとの思いが募るばかりでした。また、後方支援をいただいたメンバーの方々、熊本県警の方々のご配慮に感謝申し上げます。

最後に、九州の被災県下各地の豪雨水害でお亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げます。今後の日でも早い復興を心より願っております。

### 3. 新潟大学オンラインセミナー

#### 1) 「オンライン版 DMORT 紹介セミナー」について

(副理事長：村上典子)

いつも DMORT の普及・啓発にご尽力くださっている新潟大学医学部災害医療教育センターの佐藤栄一先生から「コロナ禍においても研修会やセミナーなど、何かできることがあるのではないかと」ご提案いただき、同大学主催でのオンラインセミナーを企画することになりました。いろいろ議論を重ねた結果、DMORT を全く知らない人にも知っていただく、無料の紹介セミナーという形式をとることにいたしました。全部で2時

間のプログラムは以下の通りです。

- ① DMORT の概要：吉永理事長
- ② DMORT に関する公開資料について：吉永理事長
- ③ DMORT 活動の実際（平成 28 年熊本地震災害、令和 2 年 7 月豪雨災害）：河野理事
- ④ DMORT 養成研修会について：村上副理事長

参加者の募集や受付、Zoom を用いてのセミナー運営など、事務的なことはすべて新潟大学で行ってくださったおかげで、約 200 名という多数の参加者も得られました。毎回のことながら、新潟大学医学部災害医療教育センターの佐藤先生、高橋晶先生はじめ、関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

## 2) セミナーを受講した方からの感想

看護師：

とても衝撃的でした。想像を絶する悲しみを抱えた遺族の方への心のサポートをする団体があったなんて……。突然大切な家族を奪われ、亡くなられたご家族の心情は図り知れないでしょう。その方たちの心の支えとなり寄り添い、時を共にすることはなかなかできることではありません。DMORT のスタッフの方々は、使命感を持って現場に立っておられるのだと思います。この紹介セミナーをきっかけに、私も目の前に悲しみや困っている方がいれば、寄り添っていけるような優しく、柔軟な心で在りたいと考えようになりました。今後も、DMORT の活躍を応援しています。ありがとうございます。

看護師：

紹介セミナーを見て、日本 DMORT が JR 福知山線列車事故の遺族対応での問題から発足していったということを知りました。災害という特殊な状況下において、家族支援ができるよう一人でも多くの人に寄り添えるようにと、日々訓練を重ねておられることも知ることができました。セミナーの中でご遺族の言葉として紹介されていた「この活動が広くあたりまえになることを祈っています」という言葉が印象的でした。

看護師：

ニュース番組で取り上げて放送されていた時にちらっと活動内容を知りましたが、今回の研修で、実際に起こった災害での活動の様子、ロールプレイのシナリオがどういったことをされているのか知りすごく関心を持ちました。災害に遭われ家族を失った方々のいかりや悲しみ、様々な思いを受け止め、寄り添う事の大切さを学ぶ良い機会となりました。

## 4. フジテレビドラマ「監察医朝顔」について

(副理事長：村上典子)

会員の方には放映前にメールでお知らせしましたが、2020 年 11 月～2021 年 3 月ま

でフジテレビ系で放映されていた「監察医 朝顔」（主演：上野樹里）というドラマの中で、「DMORT」がとりあげられました。月曜 9 時からの、いわゆる「月 9」枠で、視聴率も高いドラマです。このドラマは 2019 年 7～9 月に「第 1 シーズン」が放映され、今回は「第 2 シーズン」でした。

物語の概要ですが、主人公の朝顔（名前）は一緒に母親の実家に帰っていた時、東日本大震災に被災。母親とはぐれてしまい、そのまま母親が行方不明のままで、まだ遺体が発見されておらず、そうした経験もあり大学勤務の法医になっております。法医として様々なご遺体とそのバックグラウンドが描かれるのと並行して、朝顔自身の結婚、出産、父や祖父との関係、そして母親の死という重いテーマも進行していく、重厚な人間ドラマです。このドラマの監修に携わっておられる斉藤久子先生（千葉大学法医学教室・法歯科医）のご紹介で、第一シーズン放映中にプロデューサーの金城綾香さんと東京で直接お会いする機会がありました。金城さんはグリーンケアのことも熱心に勉強しておられ、DMORT に関心を持ってくださり、「是非ドラマの中に DMORT を登場させたい」とその時からおっしゃってくださいました。そして第 2 シーズンの中で晴れて DMORT（災害死亡者家族支援チーム）登場のシーンが取り入れられました。

1 月 25 日放映の第 11 話で、「トンネル崩落事故があり、朝顔たち大学法医学のチームが遺体安置所を設営、その現場に DMORT が参加して、主人公と話す」という場面です。DMORT 役を演じたのは役者さんですが、事前にかかなり細かいことまで取材してくださったので、とても自然な場面になったと思います。DMORT のビブスも私達が実際に使っているのと似たようなデザインにしてくださり、チームリーダーが元看護師という設定で「県警からの派遣依頼があったので来れました」というリアルなセリフもありました。登場したのはわずかな場面でしたが、セリフのない場面でも被災者に寄り添っているシーンなどもありました。エンディングでも監修の先生方と並んで「協力 一般社団法人日本 DMORT」とテロップも出ました。多くの一般の方が目にするドラマにとりあげていただいたことは、DMORT が周知される 1 つのきっかけとして、大変嬉しい出来事でした。

ドラマのネタバレになりますので、ここでは詳しくは書きませんが、行方不明の母親をめぐっての祖父（母親の父）、父（母親から見たら夫）、娘である朝顔のそれぞれの複雑な思いが描かれ、おそらく東日本大震災 10 年という節目を意識してのドラマの放映だったと思いますが、災害がもたらす死、さらに行方不明という「あいまいな喪失」の残酷さや遺された人の苦悩がきめ細かに描かれたドラマですので、是非機会があれば、観ていただけたらと思います。

## 5. 学会のお知らせ

～日本災害看護学会 第 23 回年次大会 ご案内とお願い～

大会長 山崎 達枝（長岡崇徳大学）

テーマは「災害多発時代に守りたい生命（いのち）とこころ

～実践知をともに未来につなぐ～」

【長岡現地開催からオンライン開催に変更】

時下、会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

9月4 - 5日の2日間新潟県長岡市、現地開催予定で企画を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中検討を重ね、参加者や関係者の皆様の安全と健康を最優先と考え、オンライン（ライブ配信、オンデマンド）で行うことを決断いたしました。

改めて、目に見えない病原体による未知の感染症の最前線で今も闘っておられる全国の医療従事者の方々に、心からの敬意と感謝の意を表したいと思います。お亡くなりになられた方、医療関係者に多くの教訓を残してくださいましたことに感謝とご冥福をお祈りいたします。

新たな感染症との闘いは、まだなお厳しい状況ではありますが、開催させていただくことは非常にありがたく、また大きな意味を持つものと自負しております。

大会のテーマに添ったプログラムの概要を紹介します。

特別講演1では、「中越地震を今につなぐ」とし、長年過疎化の進む地域における復興活動を通し、被災地にとって真の復興とは何かを改めて問い考えて参ります。特別講演2では、東日本大震災被災地、釜石市の遺体安置所において、被災者である釜石市民はじめ多くの支援者により、犠牲者を一刻も早く家族と再会させてあげたいという思いから、遺体の搬送や検視、身元確認などのつらい作業にあたる姿が描かれた、映画「遺体」の原作者にご講演いただきます。

教育講演では、理不尽にも亡くなられ家族から突然遺族となる「忘れられる災害死亡者家族支援（DMORT）」について、被災現場で活動する人々の「惨事ストレス」について、昨今気象の温暖化による自然災害の多発から「激甚気象と災害」など、近年特に課題となっているテーマを中心に取り上げました。シンポジウム・パネルディスカッションでは、要配慮者の方の避難をどのように地域で支えるか、多発する水害において避難行動を非日常から日常とするための支援、災害関連死ゼロに向けた支援、さらにこれまで問題となりながらも取り上げられる機会の少なかった「性の問題」や「雪害」などについて、体験者・支援者の方と皆様とともに意見交換したいと思います。また、多くの市民の皆様にも参加していただきたく市民公開講座「災害とフェイクニュースー自分と家族を守るためにできることー」を開催いたします。

この年次大会を通じて、全国から参加されます皆様と意見交換をしながらともに学び合いの場、「寄り添い」「つながり」を深められる実践の積み重ねの場とできれば幸いです。新しい生活様式ソーシャルディスタンスが求められ、人と人との距離が広がる今だからこそ、寄り添い、人とつながることの新たな方法を模索しながら、その意味を考えていく極めて有意義な機会にもなるでしょう。この大会が日々命を守るために高い理想と大きな責務を負って従事されている皆様にとっての一助となれば幸甚です。

最後に、演題登録数が非常に少ない状況です。皆様の活動を是非とも発表していただけますよう、お力添えご協力をお願いいたします。皆様のご参加を心からお待ちしておりますとともに、演題発表も重ねてお願い申し上げます。

演題登録締め切り：2021 年 5 月 17 日（月）

事前登録期間：2021 年 4 月 2 日（金）～6 月 18 日（金）

## 6. 事務局からのお知らせ

2021 年 3 月末現在での会員状況をお知らせします。理事 8 名、正会員 17 名、登録会員 165 名、賛助会員 4 名（団体）です（前回ニュースで正会員に理事を含めて二重に記載しておりました。おわびして訂正します）。

基本的には入会いただける方は「登録会員」となります（会費 3000 円）。正会員は従来の世話人や、今までに訓練に参加くださったり、研修会のタスクをして下さったり、積極的に運営に関わって下さる意思のある方などで、理事から推薦させていただいております（会費 1 万円）。

当法人の会計年度は 1～12 月ですので、会費納入をよろしくお願ひします。ご自身が会費納入をしているかが不明の方は事務局までお問い合わせください。訓練参加やタスク参加など、会員限定の特典もありますので、是非引き続き会員になっていただけるよう、よろしくお願ひいたします。なお 2 年間会費が未納の方は退会となります。

### 【理事名簿】

理 事 長：吉永和正（医療法人協和会副理事長）

副理事長：村上典子（神戸赤十字病院心療内科部長）

理 事：

北川喜己（名古屋掖済会病院副院長）・愛知県支部長

久保山一敏（京都橘大学健康科学部教授）

黒川雅代子（龍谷大学短期大学部教授）

河野智子（京都第一赤十字病院看護部）

長崎 靖（兵庫県監察医務室）

山崎達枝（長岡崇徳大学看護学部看護学科准教授）

監 事：

鵜飼卓（兵庫県災害医療センター顧問）

### 【事務局所在地】

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-15-1 協和マリナホスピタル内

電話：0798-32-1112（代） F A X：0798-32-1222

<http://dmort.jp>

E-mail: [information@dmort.jp](mailto:information@dmort.jp)

### <編集後記>

前回 10 月から半年ぶりの発行となったニュースをお送りします。毎回、「ニュースが遅れてすみません」と書いているような気がいたします。申し訳ありません。それから今回は写真が少なく、文字ばかりで読みにくく、重ねておわびいたします。

コロナ禍はまだまだ先の見えない状況が続き、これを書いている時点で「大阪、兵庫、東京でまた緊急事態宣言」というニュースがにぎわっております……。グリーフケア（遺族支援）は「寄り添う」ことが何より大切な分野です。物理的な「寄り添い」が制限されたとしても、せめて心だけでも寄り添っていただけると切に願ひます。

（編集担当：村上典子）